事務事業名		観光施設維持管理事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業					
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目					
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興										
	基本事業名	01 観光客の誘致と観光宣伝の充実										
根拠法令					☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 - 年度～) 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01	07	01	04	11	
所属	部課名	商工港湾部商業観光課										
	課長名	鈴木 弘										
	係名	観光物産係	電話	27-3111								
	担当者	佐藤雅基	内線	116								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
市内の公衆トイレ、キャンプ場等を良好な状態で維持管理するとともに基石園地など観光地の草刈、支障木の伐採など観光施設の維持管理を行う。							総投入量 (千円)	事業内訳	国庫支出金			
内容									都道府県支出金			
・基石海岸青少年キャンプ場及びトイレ浄化槽他の管理委託									地方債			
・清掃用消耗品の購入									その他			
・観光地草刈及び公衆トイレ等清掃委託									一般財源			
・岩手の国立公園をきれいにする会大船渡支部負担金交付									事業費計(A)			0
・観光施設の光熱水費支出									正規職員従事人数			
・基石椿園樹木管理委託							延べ業務時間					
・自然保護管理員及び基石・綾里園地内施設管理委託							人件費計(B)			0		
事業費は維持管理のための委託料等に支出される。							トータルコスト(A)+(B)			0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
現場での状況確認、修繕工事及び草刈委託者手配、負担金交付		ア	草刈り・清掃回数(1施設あたり)
基石海岸園地外風倒木処理		イ	保守点検回数(1施設あたり)
津波により海水浴場の砂浜、トイレ、シャワー室は流失		ウ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
前年度と同様		名称	
		単位	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		カ	維持管理が必要な観光関係施設数
市内観光関係施設		キ	観光客入込数
観光客		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
安全で快適に利用してもらう。		名称	
		単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	苦情・不具合件数
大船渡市を訪れる。		シ	苦情及び巡回による不具合対応率
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移										
		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)		
		単位								
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	3,463	3,463	3,018	2,929	2,674	2,674	
		地方債	千円							
		その他	千円	200	0	0	0	200	200	
		一般財源	千円	13,507	8,608	8,045	10,873	11,000	11,000	
			事業費計(A)	千円	17,170	12,071	11,063	13,802	13,874	13,874
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	128	128	128	128	128	128	
		人件費計(B)	千円	512	512	512	512	512	512	
				トータルコスト(A)+(B)	千円	17,682	12,583	11,575	14,314	14,386
⑤活動指標	ア	回	180	180	180	180	180	180		
	イ	回	5	6	12	6	6	6		
	ウ									
⑥対象指標	カ	施設	7	24	25	7	7	7		
	キ	千人	-	1,016	1,020	1,020	1,020	1,020		
	ク									
⑦成果指標	サ	件	0	3	1	0	0	15		
	シ	%	100	100	100	100	100	100		
	ス									

事務事業ID	0465	事務事業名	観光施設維持管理事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和39年に陸中海岸国立公園に基石海岸が編入されたことを契機として観光客が増加し、その利便を図るため観光施設を整備してきたことに付随して維持管理が必要になった。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	施設の経年劣化があり、特に利用者の多い公衆トイレでは消耗している部品の修理、交換が多くなってきている。 きれいで施設が整備された観光地に観光客が集まるようになった。 平成24年度の機構改革により部課名が商工観光部商工観光物産課から商工港湾部商業観光課に変更となった。 環境省による基石海岸集団施設地区復旧・再整備事業が平成24年度末から着工。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	特になし

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 観光施設を良好な状態で維持管理することにより観光客の利便を図ることとなるほかイメージアップにもなることから、リピーターの増加に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 公共施設を良好な状態で維持管理することは市の義務である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 対象は市内観光施設であり、その維持管理を行うことで間接的に観光客を対象とする事業である。修繕工事等によって施設の維持管理を図るため、意図も適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 予算との兼ね合いから、故障等が発生した場合には緊急を要するものから優先的に修繕を行っているため十分な修繕ができない施設がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 本事業を廃止・休止した場合、施設を良好な状態で維持することができなくなり、苦情や不具合が増加すると考えられる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒ 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 市が管理する施設の維持管理であり、専門的な知識、ノウハウを要するため現状では他の手段は考えられない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 専門的な知識・能力が必要なもの以外は職員で対応しているが、その方がコストが低く抑えられるためこれ以上の削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 簡単な修繕であれば、業者委託するよりも職員で対応した場合の方がコストがかからないため、現状の方法が妥当であり削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 観光客をはじめ、施設を利用するすべての人が受益者であり公平である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点)</p> <p>修繕等不十分のままだと、施設の経年劣化が早くなるほか、利用者の安全確保の面からも問題となる。結果としてコストが増加することとなるため、迅速かつ適切な対応をする必要がある。</p>									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>観光施設の不良箇所を発見した時点で迅速な修繕対応することにより、長期的な視点から見ると後々に大規模修繕が必要になるよりもコストは低くなる。同様に利用者の安全確保の面からも迅速な対応が必要である。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p> <p>現状では利用者等からの連絡により不良箇所が見つかる場合が多い。定期的な巡回による不良箇所の早期発見、対応をしていく必要がある。</p>																						

(職名) ※原則として施策の主管課長 (氏名)

4 事務事業の2次評価結果	2次評価者	商業観光課長	鈴木 弘
---------------	-------	--------	------

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <p>☐ 記述不足でわかりにくい</p> <p>☒ 一部記述不足のところがある</p> <p>☐ 記述は十分なされている</p> <p>②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <p>☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)</p> <p>☒ 一部に客観性を欠いたところがある</p> <p>☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</p>																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由</p> <p>適切な事務執行がなされている(苦情・不具合件数1件ー不具合対応率100%)。</p>									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、定期的な巡回等を行いながら、不具合対応率100%達成に努める。 既存予算で対応できない修繕等については、緊急度を考慮して、必要に応じて予算補正で対応していく。 大規模修繕については計画的な事務執行に努めていく。 	<p>(5) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項